

1 学校として目指す授業

基礎的・基本的な内容の定着を図りながら、児童一人一人が自分の考えをもち、人との関わりの中でその考えを深めたり広げたりする授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析（小学校6年生）

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
<ul style="list-style-type: none"> ・国語では、平均正答率が都平均、全国平均より10ポイント程度低くなっている。基礎基本が身につけていない児童が多い。音読が正確にできたり、語彙が増えたりすることによる改善が望まれる。 ・算数では、平均正答率が都平均、全国平均より10ポイント程度低くなっている。正答率の分布も、50%以下の児童が多く、60%以上の児童が少なくなっている。基礎基本が身につけていない児童が多い。計算や作図にじっくり取り組んで確実に技能を身につけていくことによる改善が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に関する意欲や普段の取り組み方については、学力・学習状況の正答率が高い児童のほうで、自己評価が高い傾向がある。しかし、生活上自己肯定感が低い児童は、学力・学習の正答率が高いにもかかわらず、自己評価が低くなりがちなので、自己肯定感を上げながら、基礎基本にしっかり取り組むことによる改善が望まれる。

(2) 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析（小学校4～6年生）

- ・授業の理解度について、各教科において理解度は高く、8割を超える児童が「よく分かる」、「どちらかといえばわかる」の肯定的意見を示している。
- ・学習の意識に関して、どの教科においても4年生が一番得意とする児童が多く、学年を追うごとに低くなり、自己肯定感が下がってきている。
- ・家庭学習において、見通しを立てて学習をすることや予習・復習の項目において半数以上が否定的な結果をしめしている。家庭学習が充実しておらず、それが授業にも表れている。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析

- ・国語では、読むことに関する問題及び情報の扱い方に関する問題の校内平均正答率が市町村の平均正答率を下回っており、文章を読んで構造や内容を理解したり、適切な情報を選んだり読み取ったりすることに課題が見られる。このことから、2学期以降、読むことと情報の扱い方に関する事項を関連付けた指導に重点的に取り組むこととする。
- ・算数では、全領域の問題の平均正答率が、市町村のそれを下回っており、既習事項が十分に身に付いていないと考える。このことから、2学期以降は東京ベーシックドリル等を活用した反復的な学習を適宜設定し、既習事項の定着を図ることとする。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果

東京都統一体力テストでは、本校の児童は男女共に「20mシャトルラン」の記録が全国平均よりスコアが低いことが分かった。基礎的な運動能力の低さだけでなく、継続的に運動をする機会が失われているとも考えられる。また、「立ち幅とび」の記録も全体的にスコアが低かった。このことから、体の動かし方を分析する能力や動画などを活用しより良い動きを追求する経験を増やす必要があると考えられる。

3 児童の学力・学習状況等の課題

- ・国語・算数ともに、既習事項や基礎基本の学習が十分に身につけていない児童が多い。基礎基本の学習の徹底を図るため、反復して習熟させる必要がある。
- ・自信のなさから、積極的に発言したり、発表したりすることを避ける児童が多い。安心して発言できる関係づくりを行うとともに自己肯定感を高める必要がある。

【授業改善推進プランの活用法】

- ①「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ②「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
- ③「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。
- ⑥12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ○...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

- ①基礎・基本的な学習内容については、教師が主体となって定着させる。
- ②児童一人一人の思考の過程（流れ）を予想・把握した授業を行う。
- ③様々な児童の思考の過程（流れ）に対応する指導・支援の方法を数多く準備する。
- ④流動的な児童の人間関係を常に把握し、意見交換のできる雰囲気づくりをする。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動において、基礎的な内容を継続的に学習し、定着をはかる。 ・読む活動において、情報を整理しながら読解していくことに慣れる。 ・一人で考える時間、友達と相談する時間を明確にする。 				<ul style="list-style-type: none"> ・指を使って数えさせる他にもブロックやそろばんを活用して、習熟させていく。 ・文章題の内容を簡単な図にするなどの作業を繰り返して、問題の場面を想像できるようにしていく。 ・計算練習では、児童の実態に応じて問題の数や内容を調節していく。 			<ul style="list-style-type: none"> ・植物の世話など身近な活動を重ねながら、野外での活動にも慣れさせていく。 ・アサガオや虫などの世話をさせていくことにより生き物や植物に愛情をもって接することができるようにしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・正しい音感やリズム感、リズム感を育てるため、範唱や範奏を聴かせたり、階名唱や暗譜の活動を取り入れたりする。 ・楽しく取り組めるよう身体を動かす活動を取り入れたりする。 		<ul style="list-style-type: none"> 自分の表現したいものを見つけ、のびやかに表現できるよう個々に応じた声かけをするともに、様々な道具や材料に慣れ親しませ、はさみ、のりなど基本的な道具の正しい扱い方を繰り返し指導する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・1時間の授業の中で、様々な運動をバランスよく行い、少しずつ体力を付けていく。 ・固定施設での運動は毎時間取り入れる。個人の伸びを褒めて、成長と達成感を味わわせる。 ・1学期の段階からなわとびを取り入れるなど、年間を通して用具操作の運動に慣れさせていく。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイなどを通して、教材の登場人物の心情を理解するとともに、友達の意見を聞いて様々な考え方ができることを知る。その過程で自分の考えをもつようにする。 				
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・読み手を意識した文章を書けるように、相手を明確にして作文に取り組む。 ・スピーチを取り入れ、内容を簡潔に伝えたり、要点を考えながら聞いたりできるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象を自分事ととらえられるように単元の導入では、身近なものや具体物からはじめる。 ・教科書のみで学ぶのではなく、体験活動や見学を多く取り入れる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・文章題などで立式の意味が理解できるよう、具体物や教材などを活用し、場面を整理しながら指導する。 ・学習したことを生活場面で実感させる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察をする前に、児童の体験活動などから予想をたてる。 ・学習した用語を授業の中で振り返る機会を設定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業内の発表の中で、友達の表現を大切に、良さに気づかせる。 ・より音楽に親しめるよういろいろな曲を聴く機会を設けたり、聴きなじみのある楽曲や児童の実態に合う楽曲を題材とすることで、興味・関心を広げていく。 		<ul style="list-style-type: none"> 木工具など新しい道具や材料の扱い方を知らせるとともに、絵の具やパス、はさみ、のり、カッターナイフ等を使う機会を増やし、適切な扱い方について繰り返し指導する。 			<ul style="list-style-type: none"> 児童が成功体験を得やすいように、ルールを緩和したり、場や道具等を簡易化する。また、友人と協力して課題解決ができるよう、意図的にグルーピングを行う。 			<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の心情や行動などから、自分自身のこととして多面的・多角的に捉える。また、友人との意見交換などを通して、より意見を深めることができるよう指導する。 					
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル文を活用して、児童の書く活動を支援する。 ・文種に応じた読みの観点を示し、読み方の理解を促す。 		<ul style="list-style-type: none"> ・各都道府県の位置、世界の国土、気候等に関する復習を設定し、知識の定着を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ベーシックドリルを活用し、既習事項の定着を図る。 ・前学年の復習を適宜行い、学習内容の理解を深める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・実験の計画を立てる際に、仮説を設定する指導に取り組むとともに、仮説と関連付けて結果を分析する指導に取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着を図るとともに、曲想の表現に必要な技能を高める。 ・ステップを細かく設定し、達成感を積み重ねられるようにする。 ・より音楽に親しめるよういろいろな曲を聴く機会を設ける。 		<ul style="list-style-type: none"> 様々な道具や技法を紹介し、自分なりの表現に必要な方法を選択判断できるよう指導する。また、自分の見方や感じ方を大切にしながら、課題意識を持って活動できるよう声かけをする。 		<ul style="list-style-type: none"> 調理実習、裁縫学習では、学習後のふり返し活動を設定し、身に付けた技能を自覚できるよう指導する。 		<ul style="list-style-type: none"> 運動量を確保するとともに、よりよい動きにつながる方策を個人やグループで考える機会を設定し、運動を通して思考・判断・表現ができるよう支援する。 			<ul style="list-style-type: none"> 簡単な外国語を使用した対話的活動を設定し、そのモデルを示す。アクティビティを通して楽しみながら外国語を学べるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の行動を評価したり、自分ならどうするかを考えさせたりする学習を設定し、自分と関連付けて考える素地を養う。 			